

---

# 基本目標 4

---

## 生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち

■□■□■ 10 生涯学習の推進 ■□■□■

- 1 学校教育の充実
- 2 青少年の健全育成
- 3 社会教育の充実

■□■□■ 11 文化・スポーツの振興 ■□■□■

- 1 文化・芸術の振興
- 2 文化財の保護・活用
- 3 スポーツの振興

■□■□■ 12 国際理解の醸成 ■□■□■

- 1 多文化共生の推進



### 10-1 学校教育の充実

#### 【現況と課題】

「おかや子育て憲章\*」の理念に基づき、市民総参加による子育てのまちづくりを推進する中で、学校教育は、未来を担う子どもたちを育成する場として、知識、技能、態度、意欲などの習得と豊かな人間性を育てるために重要な役割を担っています。子どもたちが新しい時代を切り拓く創造性豊かで、人として自立できる力を身に付けていけるよう、教育内容、教育施設や設備の充実、教育環境の整備などに努めていかなければなりません。

特に、教育施設の整備については、耐震補強などを要する小中学校の耐震改修、改築を平成27年度までの完了を目標とし、経年により老朽化している施設の長寿命化を図りつつ、計画的な整備を実施するとともに、教育内容に応じた教育機器、教材、教具の整備充実を図る必要があります。とりわけ岡谷小学校については、岡谷小学校のあり方検討委員会により検討が進められています。

また、少子化に対応した市内通学区の見直しを含めた小中学校の統廃合についても研究すべき課題です。

児童生徒を巡る課題は、複雑化や多様化が進み、長期欠席児童生徒にあっても、さまざまな要因が絡み合い、結果として登校できないという事例が多くなっています。また、いじめ根絶は大きな課題ですが、その背景にも人権意識、対人関係力や自己表現力に乏しい子どもたちの姿があり、自己肯定感\*を養う取り組みが必要です。一方、発達特性などを持つ子どもへの適切な教育的支援を行うため、特別支援教育の推進が求められています。

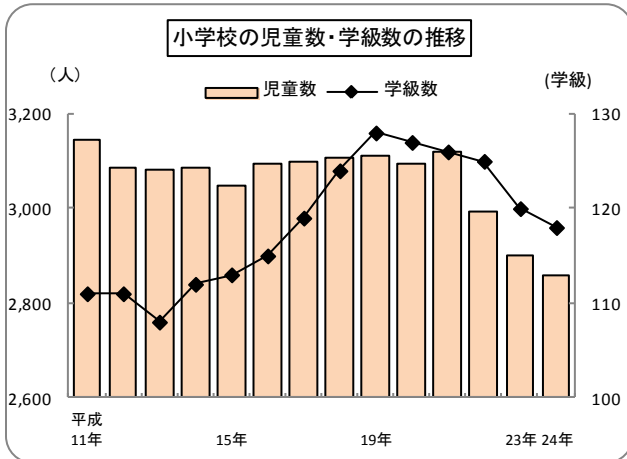
これらの教育課題を改善または解決するため、学校現場と連携を図りつつ、子どもや家庭全体をサポートできる相談支援体制など、子ども総合相談センターの機能の充実が期待されています。

食育については、地場産食材の利用促進を図るとともに、児童生徒が健全な食習慣や食に関する正しい知識と実践力を身に付けることができるよう、学校給食や総合的な学習の時間を活用し、食に関する指導の充実を図る必要があります。

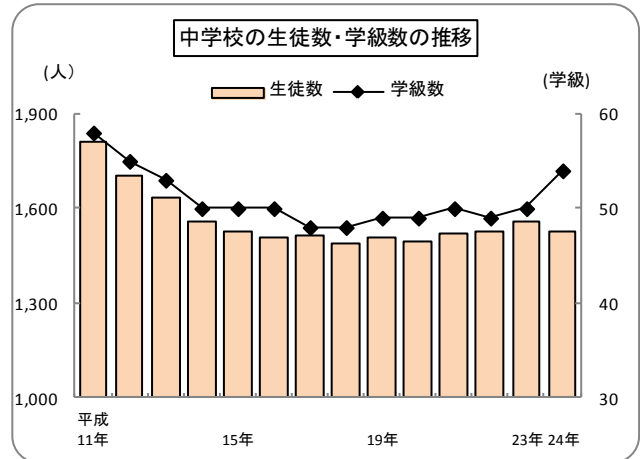
また、児童生徒が安心して教育を受けられるよう、地域住民などと協力し、安全を見守る体制を強化するとともに、学校施設については生涯学習の支援拠点として開放を継続し、地域に根ざした児童生徒の育つ地域に開かれた学校づくりを、地域と連携して引き続き推進していく必要があります。



**【資料・データ】**



\*平成14年度より30人規模学級導入



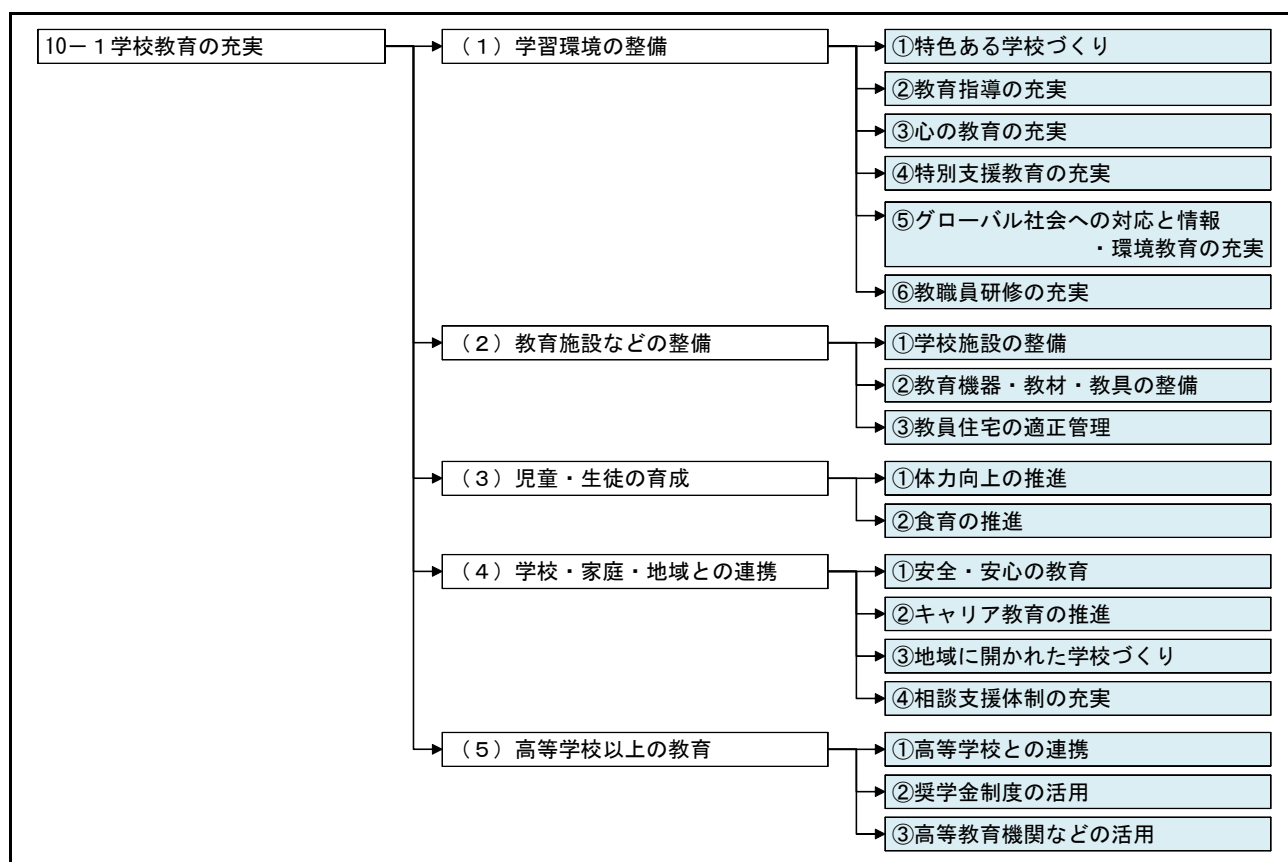
\*平成23年度より30人規模学級導入

小中学校の児童生徒・学級数の推移（特別支援含む）

区分	小学校数 (校)	学級		中学校数 (校)	学級	
		学級数 (学級)	児童数 (人)		学級数 (学級)	生徒数 (人)
平成11年	8	111	3,144	4	58	1,808
平成12年	8	111	3,087	4	55	1,701
平成13年	8	108	3,082	4	53	1,635
平成14年	8	112	3,084	4	50	1,557
平成15年	8	113	3,049	4	50	1,529
平成16年	8	115	3,096	4	50	1,508
平成17年	8	119	3,097	4	48	1,516
平成18年	8	124	3,105	4	48	1,486
平成19年	8	128	3,112	4	49	1,507
平成20年	8	127	3,093	4	49	1,495
平成21年	8	126	3,120	4	50	1,521
平成22年	8	125	2,992	4	49	1,528
平成23年	8	120	2,898	4	50	1,555
平成24年	8	118	2,856	4	54	1,524

(資料) 学校基本調査 岡谷市教育要覧  
各年5月1日現在

## 【施策の体系】



### (1) 学習環境の整備

#### ① 特色ある学校づくり

家庭や地域との連携を深め、地域の伝統や特色を生かした教育課程を編成し、地域とともに児童生徒の個性の伸長と子どもの自立への育ちを支え、基礎的、基本的な学力の定着を図り、みずから学び考え、郷土を愛する心情を育てます。また、小中一貫校など教育の多様性について調査、研究を進めます。

#### ② 教育指導の充実

各教科の学習内容を研究、吟味し、個々の児童生徒の個人差に応じた、きめ細かな指導を行い、基礎的、基本的な学力の向上に取り組むと同時に、総合的な学習、各種学校行事、特別活動などを通じてコミュニケーション能力や課題を解決する力など生き抜く力の育ちの向上に努めます。

#### ③ 心の教育の充実

道徳教育や人権教育を通じて、豊かな情操をはぐくみ、自尊感情とともに他者を思いやる心や協調性、社会性などの人間関係を築く力、規範意識と人権意識を育てます。平和体験研修の実施や子どもたちによるいじめ根絶運動を推進します。また、いじめなどの生徒指導上の諸問題に対応し、子どもたちの悩みや不安、ストレスなどを軽減するために、学校や医療機関等関係機関と行政が連携し、相談支援の充実を図ります。



#### ④特別支援教育の充実

児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善、克服するため、適切な指導や支援を行うとともに、副学籍による交流および共同学習の取り組みなどを通じて、すべての子どもが輝き、ともに学び、ともに育つ共生社会の実現をめざします。また、専門性の高さや質の向上が求められることから、医療機関をはじめとする各種関係機関や、庁内各部署との連携を深めます。

#### ⑤グローバル社会への対応と情報・環境教育の充実

国際化や情報化など、急速な社会変化に対応するため、ALT\*や（公財）おかの文化振興事業団国際交流センターなどと連携しながら、英語学習の充実と英語コミュニケーション能力の向上を図ります。また、情報化社会に積極的に対応できる情報活用、情報基礎の能力の育成、情報モラル教育と環境や環境問題に対して必要な知識等の習得や理解を深める教育の充実を図ります。

#### ⑥教職員研修の充実

未来を担う児童生徒の教育に携わる人材として、高度な知識や指導力、責任感などに加え、社会の多様なニーズや課題への適切な対応力が求められます。子どもや地域とともに歩み、意欲的にみずからの資質能力を磨く教職員をめざして、研修機会の確保や学びやすい環境の整備に努めます。

### (2) 教育施設などの整備

#### ①学校施設の整備

「岡谷市耐震改修促進計画」に基づき、平成27年度までに学校施設の耐震化（非構造部材含む）を完了させ、経年などにより老朽化している施設の長寿命化を図るための定期的な点検と計画的な施設整備に努めます。岡谷小学校については、岡谷小学校のあり方検討委員会の提言を受け、方針決定を行います。

また、少子化に対応した市内通学区の見直しを含めた小中学校の統廃合についても広く意見を聞きながら検討します。

#### ②教育機器・教材・教具の整備

教育内容に応じた教育機器、教材、教具の整備に努め、あわせて経年により劣化しているこれら教材機器などの計画的な更新により充実を図るとともに適正な管理に努めます。

#### ③教員住宅の適正管理

「岡谷市教員住宅管理運営計画\*」に基づき、教員住宅の適正管理に努めます。また、老朽化している教員住宅の今後の活用などについて十分な検討を行い、有効活用できるように努めます。

### (3) 児童・生徒の育成

#### ①体力向上の推進

児童生徒が体育授業や体育行事などを通じて運動の楽しさを味わい、仲間と運動することの素晴らしさや喜びを体験する中で、体力や技能の向上の推進を図ります。

#### ②食育の推進

家庭や地域との連携のもとに、バランスのとれた望ましい食習慣の形成と健康の増進、食に対する感謝の心や健全な心身をはぐくむため、総合的な学習や体験学習により、食育の推進を図ります。また、食物アレルギーのある児童生徒の食に関する管理を徹底します。

### (4) 学校・家庭・地域との連携

#### ①安全・安心の教育

児童生徒に対して生命尊重、人間尊重の教育を徹底し、過去に起きた犯罪や災害などを教訓としながら、みずから判断して危険を回避する力をはぐくむ防災教育の充実を図るとともに、地域ぐるみで子どもを見守り、育てていく環境づくりを促進します。

#### ②キャリア教育の推進

多様化する社会環境に対応するため、社会的に自立した人間の育成をめざし、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育\*の推進を図ります。

#### ③地域に開かれた学校づくり

地域に開かれた学校をめざすため、地域住民との交流や生涯学習の支援拠点としての施設の開放を進めるとともに、学校、家庭、地域の連携や協働による信州型コミュニティスクール事業\*の研究を進め、順次取り組んでいきます。

#### ④相談支援体制の充実

子ども総合相談センターを中心とする教育支援をより進展させ、乳幼児期から学齢期へと子どもの成長に合わせ、さらに、将来の社会的自立を見通した教育や支援が行えるよう、途切れのない相談支援体制づくりを進めます。また、関係機関や地域の繋がりを大切にし、福祉や医療と連携を図って子育て家庭を支え合う地域をめざします。



## (5) 高等学校以上の教育

### ①高等学校との連携

高等学校との連携を密にし、生徒にとって魅力ある教育内容が編成される学校づくりを働きかけます。

### ②奨学金制度の活用

学ぶ意欲ある生徒、学生のために奨学金貸付制度を活用し、次世代を担う人材育成に努めます。

### ③高等教育機関などの活用

大学などの専門的知識を有する機関を活用し、本市の教育、文化、産業の振興を図ります。

## 【目標指標・数値】

指標名：学校満足度（「学校経営概要まとめ」小中学校編）

内容説明：数値が高くなることは、学校に対する満足度の増を意味する。

（満足度（%）＝「学校へ行くのが、とても、あるいは概ね楽しい」と答えた児童生徒数  
÷アンケート回答数×100）

指標名	実績	後期計画	
	最新実績 平成24年度	開始時目標 平成26年度	終了時目標 平成30年度
学校満足度（小学生）	89.7%	91.0%	93.0%
学校満足度（中学生）	89.2%	90.5%	92.5%

## 【用語解説】

\*おかや子育て憲章：(憲章本文) わたくしたち岡谷市民は、未来を担う子どもたちの健全な成長を願い、子どもの心の自立を支えるため、市民総参加による子育てのまちづくりを進めます。

わたくしたちは、

- 明るく元気で健やかな子どもに育てます。
- 命を大切に、感謝の心と思いやりのある子どもに育てます。
- 自ら求め、粘り強くやり抜く子どもに育てます。
- 行動に責任を持ち、ひとり立ちのできる子どもに育てます。
- 力を合わせて人のために尽くし、郷土を愛する子どもに育てます。

平成14年4月1日制定

\*自己肯定感：自分が周囲から認められ、他者の役に立っていると思える心の状態のこと。

\*ALT (Assistant Language Teacher/外国語指導助手)：日本の学校で外国語授業を補助する助手のこと。

\*岡谷市教員住宅管理運営計画：教員住宅の現状や教職員の要望などを踏まえて、今後の計画的な維持管理と不用な教員住宅の処分を含めた管理運営のため、岡谷市教育委員会が定めた計画。平成19年度に策定(計画期間：平成25年度～平成29年度)。

\*キャリア教育：子どもたちが、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限に発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育のこと。一例として職場見学、職場体験などがある。

\*信州型コミュニティスクール事業：学校、家庭、地域の連携や協働による地域の実情に応じた、一体的で持続的な学校運営や学校支援等の仕組みを小中学校でつくり、地域が見守り支える「地域とともにある学校」「地域に開かれた学校」づくりを進める事業のこと。





## 10-2 青少年の健全育成

### 【現況と課題】

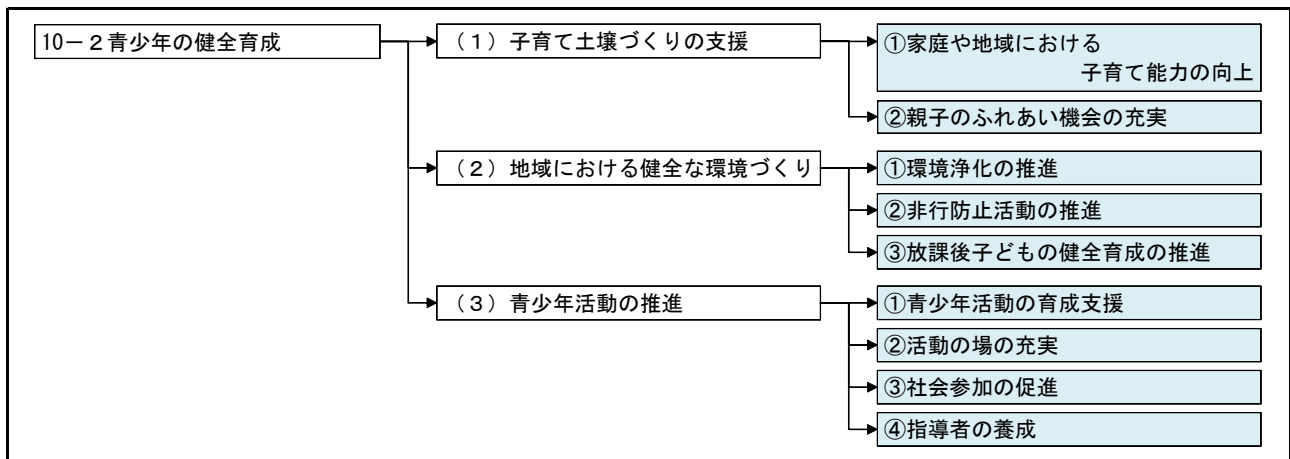
少子高齢化が進み、青少年を取り巻く環境は急激に変化しています。中でもインターネットは、新たなコミュニケーションの手段として普及する一方、学校や家庭など身近な集団での人間関係の希薄化や有害情報の氾濫などが大きな社会問題となっています。こうした社会環境の変化や家庭における教育力の低下、地域における連帯感の希薄化により、従来果たしてきた育成機能を充分発揮することが困難になりつつあります。また、いじめや長期欠席児童生徒の問題、インターネットなどによる有害情報の氾濫、青少年に関わる凶悪事件の多発など深刻な状況となってきています。

このような青少年を取り巻く問題は、社会のさまざまな要因が相互にからみあい、年齢に応じて異なることから、乳幼児期から青年期まで、家庭、学校、地域、関係機関が連携し、社会全体で支援していくことが求められています。その中で、健全育成の基礎となる親子の絆を深め、ボランティアなど、自主的、自発的な地域活動の参画を促すとともに、子どもたちの自己効力感\*や自己肯定感をはぐくむための体験活動や異年齢交流などの青少年活動を推進し、心豊かに成長できるよう努めていく必要があります。

また、子どもたちの放課後や休日などの安全・安心な居場所づくりと健全な育成を進めるため、学童クラブおよび放課後子どもの居場所づくり事業の充実が求められています。

青少年の非行防止活動については、関係機関が連携し、指導、支援していくなど積極的な推進が求められています。

### 【施策の体系】





## (1) 子育て土壌づくりの支援

### ①家庭や地域における子育て能力の向上

子どもの健全育成における家庭や地域の役割について、家庭教育学級の開催や「おかや子育て憲章」の理念を具現化するため、「成長樹（期）子育て実践ポイント」の活用により、保護者の意識啓発や地域ぐるみの子育て意識の啓発を図ります。

### ②親子のふれあい機会の充実

親子が楽しみながら学び、ふれあえる講座の開催やうち読でエコ読\*を含めた親子での読書会などの親子活動、遊び、スポーツなどのふれあいを通して親子の絆を深め、また、人として思いやる心を育てるよう努めます。

## (2) 地域における健全な環境づくり

### ①環境浄化の推進

家庭、学校、地域の連携のもとに、近年、社会問題となっているスマートフォンなどのインターネットによる有害情報から青少年を守るための適切な使用の啓発など、社会全体で青少年を支援していく機運の醸成に努め、青少年が安心して生活できる環境づくりを推進します。

### ②非行防止活動の推進

「青少年は地域社会からはぐくむ」という観点から、家庭、学校教育現場、地域社会、育成団体、関係機関が一体となり、児童生徒の校外生活における問題行動の早期発見と非行の未然防止に努め、育成啓発活動を推進します。

### ③放課後子どもの健全育成の推進

学童クラブは、国の新たな子ども子育て支援制度の方針に基づき、施設の計画的な整備を行うとともに、小学校高学年児童の受け入れについても検討を進めます。

また、放課後子どもの居場所づくり事業は、全小学校で実施していますが、地域住民による子育てをテーマに事業のさらなる充実を図ります。

この2つの事業の推進を通して総合的な放課後対策を進め、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる環境づくりに努めます。

## (3) 青少年活動の推進

### ①青少年活動の育成支援

地域の子ども会やリーダーズ倶楽部、スポーツ少年団など、各種青少年団体、グループによる自主的活動の支援、育成を推進します。

### ②活動の場の充実

野外活動、自然体験、職業体験学習、異年齢交流などの校外活動を促進するとともに、塩嶺野外活動センターや生涯学習館などの青少年活動の拠点施設を活用し、研修、スポーツやレクリエーションなどの青少年活動が展開できる場の充実に努めます。

### ③社会参加の促進

人間性や社会性をはぐくむため、地域の行事やボランティア活動など地域活動への青少年の自主的、自発的な参加を促進します。

### ④指導者の養成

青少年の健全育成を図るため、地域活動における指導者としてふさわしい資質の向上を支援することにより、その養成を図るとともに指導者層の拡大に努めます。

## 【目標指標・数値】

指標名：①家庭教育学級の参加者数

②放課後居場所づくりの開催回数

③岡谷市リーダーズ倶楽部関係事業の参加者数

内容説明：①幼児、児童が心身ともに健やかに育つように、保護者に対し学習や、意識啓発を推進する。

②小学校の放課後などに、地域住民参画による子育てにより、安全・安心な環境づくりを推進する。

③事業を通して、倶楽部員および参加者が協調性、自主性など、資質の向上を図る。

指標名	実績	後期計画	
	最新実績 平成24年度	開始時目標 平成26年度	終了時目標 平成30年度
①保育園・幼稚園家庭教育学級 小学校家庭教育学級	①4,234人 ①3,205人	①4,250人 ①3,250人	①4,400人 ①3,400人
②放課後居場所づくりの開催回数	② 125回	② 130回	② 140回
③岡谷市リーダーズ倶楽部関係事業の 参加者数	③ 672人	③ 680人	③ 700人

## 【用語解説】

\*自己効力感：野外体験や異年齢交流などの活動の中で、多くの人と関わりながら、「やれば出来る」「こうすれば出来る」などの体験をすることにより、これから生きる上での、自信や期待、行動の動機づけが得られる。

\*うち読でエコ読：家族みんなで本を読む、うち読、テレビやゲームを消してひとつの部屋に集まって読書をする、エコ読。毎月第3日曜日を、うち読でエコ読の日として提唱する読書推進活動。



## 10-3 社会教育の充実

### 【現況と課題】

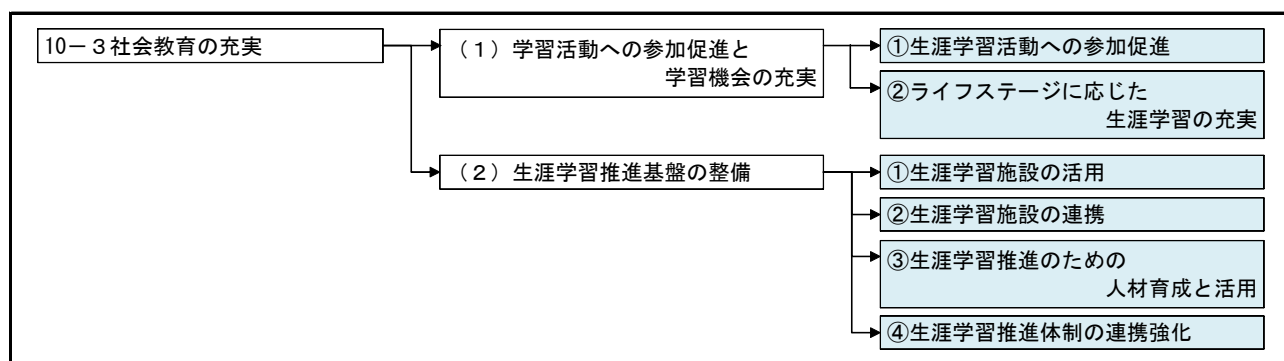
生活が豊かになり、情報端末の発達などにより生活の多様化が進んでいる現代においては、生涯学習の範囲も多岐にわたり、求められるニーズも高まってきています。また、それに応えるべく人材の育成と確保も必要となってきました。

生涯学習関連施設では、従来から多くの市民が学習に取り組み生涯学習活動が盛んですが、さらに、各世代に合った学習機会の充実を図り、楽しみながらみずからを高める学習支援により、多岐にわたる生涯学習のニーズに応えていく必要があります。

少子高齢社会の中では、安心して子どもを育てる知識の習得や学習の機会、団塊の世代の社会参加による地域への貢献やその中で生きがいづくりを推進し、ボランティア活動や生涯学習活動の指導者として参加を進める学習の機会の充実などの必要があります。

生涯を通じ学ぶことで、豊かな心をはぐくみ、地域との連携につなげるため、生涯学習の環境づくりや学習機会を充実し、自主的な生涯学習活動への参加を一層促進することが求められています。

### 【施策の体系】



#### (1) 学習活動への参加促進と学習機会の充実

##### ①生涯学習活動への参加促進

生涯学習の必要性や魅力を情報発信し、学習意欲の啓発を進めるとともに、気軽に参加できる環境づくりにより参加促進を進めます。

##### ②ライフステージに応じた生涯学習の充実

###### ア. 家庭教育の充実

乳幼児の基本的な生活習慣および精神的、身体的発達の基礎づくりを学ぶ機会や家庭教育学級の充実に努めます。また、「おかや子育て憲章」の理念を具現化する中で、さらなる普及と啓発を図るとともに、親子のふれあいの機会を充実し、家庭教育の活性化に努めます。



#### イ. 青少年学習活動の支援

青少年活動の推進や社会活動へ参加するために、必要な学習機会の充実を図り、青少年学習活動を支援します。

#### ウ. 成人学習活動の充実

学術、文化、地域など多様で高度な学習課題に対応するため、市民大学や各種の教養講座を実施するとともに、自主的な学習活動を推進するため、学習情報の提供に努めます。

#### エ. 高齢者学習活動の充実

高齢社会の中で、生きがいのある人生を送るために、心身の健康を保ち、見聞を広げ、仲間や世代間の交流を行い、地域とのかかわりを持てるようにするため、幅広い分野に対応できる学習機会の拡充に努めます。

## (2) 生涯学習推進基盤の整備

### ①生涯学習施設の活用

#### ア. 生涯学習館、公民館の活用

生涯学習館、公民館は、生涯学習の拠点として、利用者のニーズの把握に努め、多様な学習機会を提供し、自主的な活動が活発に行われるよう努めます。

#### イ. 図書館の活用

図書館は、幅広く資料の収集、整備、保存し、広域図書館ネットワークシステムの拡充を図るとともに、生涯学習の場として子どもから大人まであらゆる市民の読書活動を支援するための事業の充実を図ります。また、地域の課題解決や地域振興のために必要な資料や情報を提供し、情報発信に努めます。

#### ウ. 蚕糸博物館の活用

蚕糸博物館は、学術的、歴史的な学習ニーズに応える展示の観覧、体験学習の場となっています。来館者の知的好奇心を満足させる展示の充実を図り、動態展示という施設の機能を活かし、さまざまな学習の機会を提供します。

#### エ. 美術考古館の活用

美術考古館は、歴史的、芸術的な学習ニーズに応える資料や作品の観覧、体験学習の場、および生涯学習の成果の発表の場となっています。文化を核にしたまちづくりを推進するため、さまざまなジャンルの展覧会を開催することにより、より質の高い芸術、文化作品に触れる機会を設け、学習意欲を高めるとともに、学習の成果の発表の場の充実を図ります。

### ②生涯学習施設の連携

生涯学習関連施設は、市民のための生涯学習を推進するために、相互の連携に努めます。

### ③生涯学習推進のための人材育成と活用

#### ア. 指導者の養成とボランティアの活用

生涯学習を積極的に進めるための指導者となる人材の確保、養成に努めるとともに、学習ボランティアの活用に努めます。

イ. 学習グループ、団体の育成

自主的な学習グループ、団体の育成を支援するとともに、学習グループリーダーの養成に努めます。

ウ. 生涯学習講師制度の活用

市民の生涯学習活動への自主的な参加を促進するため、新たに構築した生涯学習人材バンクおかやマナビスタッフ\*への登録を促進し、活用を図ります。

④生涯学習推進体制の連携強化

ア. 各部署の連携強化

「岡谷市生涯学習推進計画\*」、「岡谷市子ども読書活動推進計画\*」などをもとに、関係部署の連携を強化し、生涯学習の推進に取り組みます。

イ. 生涯学習推進計画の見直し

生涯学習は、社会環境の変化に伴い、個人の学習の充実に加え、学習の成果がまちづくりや子どもたちの健全育成に活かされることが一層求められているため、「第4次岡谷市生涯学習推進計画」における課題と評価に基づく見直しを行う中で、「第5次岡谷市生涯学習推進計画」の策定に取り組みます。

**【目標指標・数値】**

指標名：①生涯学習館、公民館の利用者数

②市立岡谷図書館の貸出冊数

③おかやマナビスタッフ登録者数

内容説明：①生涯学習の拠点として利用促進を図る。

②年間の総貸出冊数を増やし、図書館の利用促進を図る。

③延べ登録者数を増やし、生涯学習講師制度の円滑な推進を図る。

指標名	実績	後期計画	
	最新実績 平成24年度	開始時目標 平成26年度	終了時目標 平成30年度
①生涯学習館、公民館の利用者数	①178,699人	①179,000人	①180,000人
②市立岡谷図書館の貸出冊数	②359,846冊	②361,000冊	②366,000冊
③おかやマナビスタッフ登録者数	③未実施	③150人	③250人





**【用語解説】**

- \*生涯学習人材バンクおかやマナビィスタッフ：さまざまな知識、経験、技能を地域のために提供をしていただく、生涯学習に活用する新たな講師登録制度。
- \*岡谷市生涯学習推進計画：本市の生涯学習に関する施策を総合的に推進するため、基本理念、基本目標、主要施策などを定め、長期的な視野に立って取り組むための基本的な計画。第5次計画は平成26年度中に策定（計画期間：平成27年度～平成31年度）。
- \*岡谷市子ども読書活動推進計画：子どもの自主的な読書活動を推進するとともに、社会全体での取り組みや子どもが読書に親しむ機会の提供と諸条件の整備に努め、読書活動の意義や重要性について広く普及啓発を図る計画。第2次計画は平成25年度に策定（計画期間：平成26年度～平成30年度）。

## 政策11 文化・スポーツの振興

### 11-1 文化・芸術の振興

#### 【現況と課題】

本市では、カノラホール、蚕糸博物館、美術考古館、イルフ童画館など芸術文化施設を整備し、芸術文化活動また地域の歴史を学ぶ場や機会の充実を図ってきました。

今後も引き続き芸術や地域の文化、歴史などに市民が身近に接し、豊かな感受性をはぐくみ地域に愛着と誇りを持つとともに、特色ある芸術文化活動を活発に行うことができるよう、各施設が連携しながら文化を核にしたまちづくりを推進する必要があります。

カノラホールは、優れた芸術鑑賞の場、新しい文化の創造の場、次代を担う人材の育成の場として地域文化の中心的役割を果たすべく、施設の管理および自主事業の充実に努めています。

自主事業においては、ジャンル、対象年齢層などのバランスを十分に考慮する中で、世界の一流音楽家からも高い評価を受けるホールの音響特性を最大限に活かした事業を柱として行っており、今後も質の高い芸術を安価で提供し、市民が芸術文化に触れる機会の充実に努める必要があります。

また、平成 23 年度から平成 25 年度にかけて 3 か年計画で舞台機構などの大規模改修を行いましたが、その文化水準を維持するため引き続き計画的な整備が必要となっています。

蚕糸博物館は、シルク岡谷とうたわれ日本の近代化に貢献した岡谷の製糸業に関する機械器具類や記録資料類を中心に、蚕糸業全般にわたって貴重な資料などを収蔵し、養蚕、製糸業によりはぐくまれた文化、歴史、そして、先人の偉業を全国に発信し、後世に伝承するほか、新たなシルク文化を生み出す岡谷ブランド発信の拠点施設として、また、観光拠点としての役割を果たすことが求められています。

美術考古館は、絵画、彫刻、工芸などの郷土の優れた美術作品と市内遺跡から発掘された貴重な土器類などを収蔵、展示し、地域の芸術文化の振興に努めています。

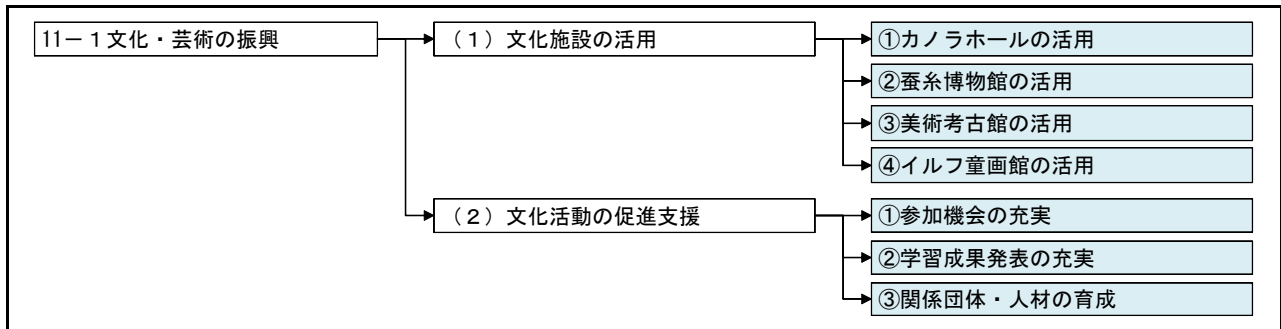
以前より、施設の老朽化と機能の不足の問題を抱えていましたが、平成 25 年度に美術考古館が整備され、新たな環境の中でまちの賑わいにも貢献し、郷土の芸術文化をさらにはぐくみ、文化を核にしたまちづくりに向けた活動の充実が求められています。

イルフ童画館は、童画文化を発信する基地として、世代を超えた多くの人々に武井武雄作品のすばらしさを伝えながら、個性豊かな芸術文化の振興、次代を受け継ぐ童画家の育成、支援に努め、童画のまちづくりを推進しています。

今後は、平成 26 年の武井武雄生誕 120 年記念事業を契機として、さらなる知名度の向上を図り、入館者数の増加に努める必要があります。



## 【施策の体系】



### (1) 文化施設の活用

#### ①カノラホールの活用

カノラホールは、舞台芸術文化の拠点としてオペラ、バレエ、オーケストラなど優れた舞台芸術作品鑑賞の機会充実を図るほか、特色ある独自の芸術作品の企画、制作などを推進するとともに、次代を担う人材、リーダーの育成、市民参加型事業を支援します。

また、市民の集会、行事、発表の場としても一層の活用を図るとともに、適切な管理、運営に努め、引き続き計画的な施設整備を進めます。

#### ②蚕糸博物館の活用

蚕糸博物館は、養蚕、製糸業により育まれた文化、歴史、そして、先人の偉業を全国に発信し、後世に伝えるため、魅力ある歴史展示、現役の製糸工場を見ることができる動態展示など施設の特徴を活かした常設展示の充実をめるとともに、企画展や体験学習会の開催、紀要の発刊などを行い、シルクのまちづくりを推進します。

#### ③美術考古館の活用

美術考古館は、平成 25 年度に施設整備したことにより、収蔵庫や展示室の機能確保が十分に図られ、地域の特性を活かした芸術作品や文化財資料を収集、保存し、より質の高い、さまざまな展覧会を開催することにより、芸術文化に接する機会の充実を図ります。

また、市民ギャラリーや交流ひろばの機能を十分に活用して、市民の芸術作品の発表の場とし、生涯学習の推進に努めます。

地域に根ざした美術考古館として、市民に親しまれ、適切な管理、運営に努めます。

#### ④イルフ童画館の活用

イルフ童画館は、武井武雄作品を中心に童画作品の充実を図るほか、所蔵する武井武雄、モーリスセンダックの作品や世界の童画企画展を開催するとともに、童画に関する特色あるワークショップを展開するなど、童画のまちづくりを推進します。

また、次代を担う若手童画家の発掘と支援、育成のため、日本童画大賞を開催するとともに、武井武雄の生んだ童画文化の研究をより深め、活用を図ります。

武井武雄生誕 120 年記念事業では、全国巡回展を開催し全国レベルのプロモーション活動を展開するなど、武井武雄ファンを増やすための情報発信を強力に推進します。

### (2) 文化活動の促進支援

#### ①参加機会の充実

文化活動の推進を図るため、施設の特性を生かしながら各施設が連携し各種講座の開設、学習情報の提供を進めるなど、市民が気軽に文化活動に参加できる機会の充実に努めます。

#### ②学習成果発表の充実

日頃の文化活動の成果を発表する機会の充実に努めるとともに、市広報などを通じて活動内容の紹介を行うなどにより、学習活動の一層の促進を図ります。

#### ③関係団体・人材の育成

市民文化活動の推進を図るため、各種の文化団体、グループの育成や指導者の養成に努めます。

#### 【目標指標・数値】

指標名：①カノラホール入場者数

②蚕糸博物館入館者数

③美術考古館入館者数

④イルフ童画館入館者数

内容説明：①カノラホールの年間の総入場者数

②蚕糸博物館の年間の総入館者数

③美術考古館の年間の総入館者数

④イルフ童画館の年間の総入館者数

指標名	実績	後期計画	
	最新実績 平成24年度	開始時目標 平成26年度	終了時目標 平成30年度
①カノラホール入場者数	①102,856人	①103,800人	①109,000人
②蚕糸博物館入館者数	②休館中	②休館中	②50,000人
③美術考古館入館者数	③休館中	③12,000人	③14,000人
④イルフ童画館入館者数	④25,462人	④25,900人	④28,400人



## 11-2 文化財の保護・活用

### 【現況と課題】

本市は、日本のほぼ中央に位置し、東西文化交流の接点にあたる要衝の地として、人々が住み続け、縄文から奈良、平安時代の遺跡が残されています。海戸遺跡からは、国重要文化財顔面把手付深鉢形土器が出土し、橋原遺跡からは諏訪地方に稲作文化が伝播したことを示す炭化米が出土しています。古墳時代には多くの古墳が豪族たちにより造られ、奈良時代以降は長地地区に諏訪地方を治めていた役所が置かれ、諏訪の都として繁栄しました。

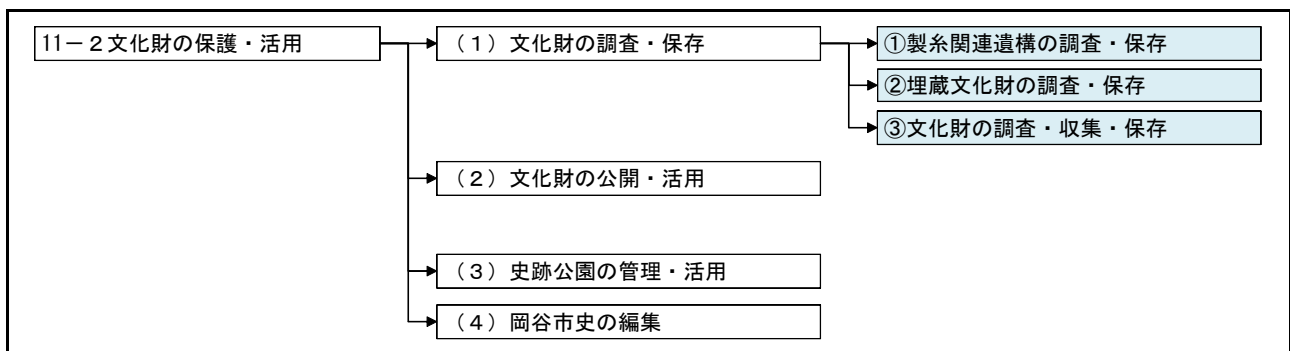
市内の寺院には、室町時代以降の仏像が安置され、江戸時代には諏訪地方を代表する大隅流、立川流による社寺建築が数多く残されています。

明治時代から昭和初期には、製糸業の一大中心地として輸出産業の一翼を担い、日本の近代化をけん引し、シルク岡谷の名は世界に轟きました。これらの遺産は、国重要文化財旧林家住宅や国登録有形文化財旧山一林組製糸事務所、経済産業省認定近代化産業遺産群などとして市内各所に残され、また、諏訪式繰糸機ほか機械類は、日本機械学会による機械遺産の認定を受け蚕糸博物館に保存されています。

こうした本市の文化や産業の発展を示す大切な遺産を蚕糸博物館や美術考古館の移転を契機に活用を進め、郷土愛をはぐくめるよう生涯学習やまちづくりに取り入れていくことが大切です。

これら文化財の調査、保存、公開、活用を通して、文化財を保護する意識の醸成を図る必要があります。

### 【施策の体系】



#### (1) 文化財の調査・保存

##### ① 製糸関連遺構の調査・保存

本市発展の基礎となり、日本の近代化を支えた製糸業に関する遺構について生涯学習やまちづくりに資するよう、引き続き調査や保存を進めます。



## ②埋蔵文化財の調査・保存

公共事業や住宅建設などの土木工事に伴う事前の遺跡調査を行い、記録に留め、資料や出土品の保存を図ります。

また、指定されている史跡について、引き続き保存を図ります。

## ③文化財の調査・収集・保存

郷土の歴史や文化財の調査、記録、研究、収集、保存を進めるとともに、文化財ボランティアの育成を図り、文化財保護の意識啓発を進めます。

## (2) 文化財の公開・活用

市内各遺跡の出土品や製糸関係の民俗資料など、収集、保管する文化財は、美術考古館や蚕糸博物館などで積極的な公開と活用を図ります。

また、近代化産業遺産群については、地域活性化の有益な資源として多様な活用を図ります。

今後、消防署機能が移転する旧市役所庁舎は、建物の保存を優先しながら活用について検討します。

## (3) 史跡公園の管理・活用

国指定史跡梨久保遺跡は、縄文時代の暮らしをテーマとする史跡公園として活用を図ります。また、市指定史跡広畑遺跡は、史跡公園として環境整備と活用を検討します。

## (4) 岡谷市史の編集

本市の歴史と文化に関する記録や調査研究資料の収集を図るとともに、「岡谷市史下巻」の発行から 30 年以上経過していることも踏まえ、市民参加による市史編集の研究を深め、発刊に向けた体制を含めて具体化について検討します。

### 【目標指標・数値】

指標名：文化財公開施設入館者数

内容説明：旧林家住宅・旧渡辺家住宅入館者の数

指標名	実績	後期計画	
	最新実績 平成24年度	開始時目標 平成26年度	終了時目標 平成30年度
文化財公開施設入館者数	2,608人	2,650人	2,850人

## 11-3 スポーツの振興

### 【現況と課題】

平成23年に国のスポーツ振興法が半世紀ぶりに全面改正され、スポーツ基本法が成立しました。基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利である」と明記され、新しい時代におけるスポーツの基本理念が示されました。

このように、スポーツの果たす役割は大変大きく、市民誰もが豊かなライフスタイルを構築し、より一層健康で活力ある人生を送ろうとする意識が高まっています。

本市のスポーツ施設は、市民総合体育館、市民水泳プール、市営庭球場、市営岡谷球場などがあり、各種大会、スポーツ教室などやそれぞれのライフスタイルに応じた活用がされ、市民のスポーツ活動の拠点となっています。

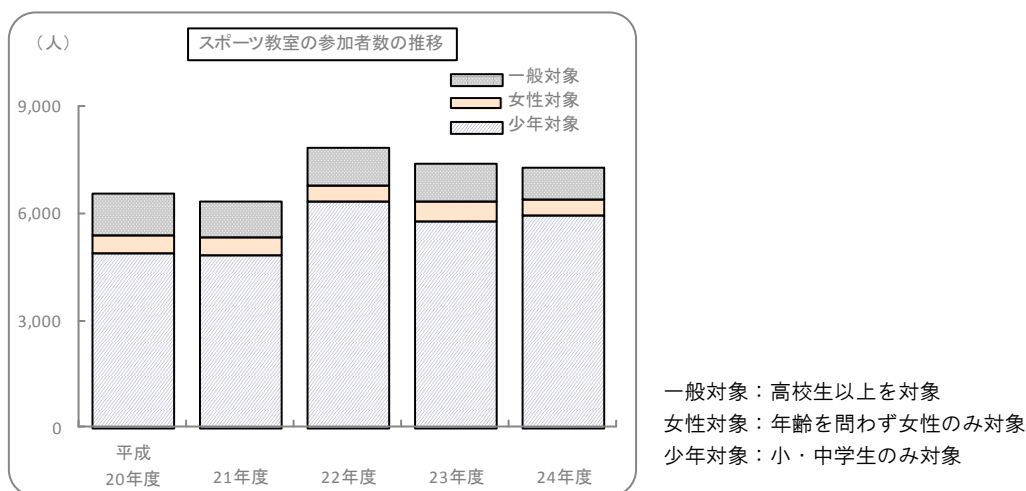
今後は、これらの施設の整備をさらに進めるとともに、適切な維持管理と運営を図り、市民ひとり1スポーツの実現のため、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進し、市民スポーツのより一層の振興に努めていく必要があります。

また、社会状況の変化に伴い、子どもの体力低下が全国的な問題となっているため、体力の向上に向け、子どものスポーツ機会の充実を図る必要があります。

恵まれた施設、環境を活かし、スポーツを軸にしたまちづくりの推進に努めるとともに、指導者の確保や選手の育成を図り、競技力の向上に努めていく必要があります。

これらを円滑に進めるため、地域特性を活かした「岡谷市スポーツ推進計画」の策定が課題となっています。

### 【資料・データ】

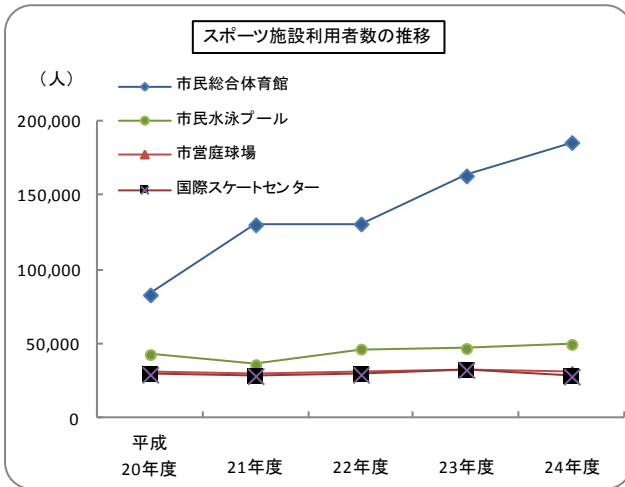


スポーツ教室の参加者数の推移

(単位：人)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
一般対象	1,122	1,034	1,054	1,059	874
女性対象	505	479	442	566	458
少年対象	4,865	4,805	6,321	5,752	5,899





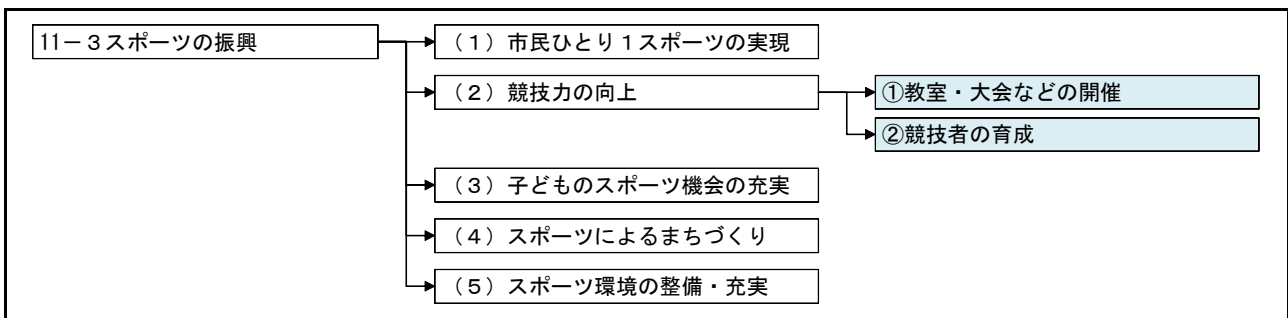
屋内プールは、平成21年度まで屋外プール利用者を含む

スポーツ施設利用者数の推移

(単位：人)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
市民総合体育館	82,928	130,171	130,749	163,156	185,648
市民水泳プール	42,720	35,895	46,380	46,816	49,568
市営庭球場	31,604	29,078	31,321	32,509	31,295
国際スケートセンター	29,127	28,147	29,104	32,320	27,871

### 【施策の体系】



#### (1) 市民ひとり1スポーツの実現

幸福で豊かな生活や健康長寿社会の実現に欠かすことのできないスポーツを推進するため、「岡谷市スポーツ推進計画」を策定します。

また、体力づくり、健康志向など市民のライフステージに応じたスポーツ活動を推進するため、(公財)岡谷市体育協会と協働して各種スポーツ教室、大会などの充実を図ります。

さらに、総合型地域スポーツクラブの育成、支援を行い、地域におけるスポーツの機会の充実を図るとともに、適切な指導ができるスポーツ指導者の養成に努めます。

## (2) 競技力の向上

### ①教室・大会などの開催

トップアスリートによるイベントなどを開催し、スポーツへの関心や参加意欲を高めるとともに、競技力向上のためのスポーツ教室、大会などを開催し、競技スポーツ人口の拡大を図ります。

### ②競技者の育成

競技スポーツの振興と競技力の向上を図るため、(公財)岡谷市体育協会と連携し、全国的な舞台で活躍できる競技者の育成に努めるとともに、スポーツ指導者の養成を推進します。

## (3) 子どものスポーツ機会の充実

子どもの体力向上に向け、学校体育の活動の充実を図るとともに、スポーツを行うきっかけづくりのため、幼児期から遊びを通じて体を動かす楽しさを体験できるよう、多様なスポーツの機会を提供し、子どもたちが健全に成長していくための環境づくりに努めます。

## (4) スポーツによるまちづくり

恵まれた施設や環境を活用して、スポーツを通じた地域交流や人材育成などスポーツによるまちづくりを推進します。

また、スケートのまちづくりやバレーボールのまちづくりの推進と岡谷市発祥のスポーツエースドッジボールの普及促進を図ります。

## (5) スポーツ環境の整備・充実

安全で快適なスポーツ活動に取り組めるスポーツ環境の整備、充実に努めます。



**【目標指標・数値】**

指標名：①スポーツ施設利用者数

②週1回以上運動・スポーツをする成人の割合(健康増進に関するアンケート調査より)

③国民体育大会出場種目・選手数(岡谷市関係)

④スポーツ少年団登録単位団・団員数(岡谷市スポーツ少年団)

内容説明：①スポーツ施設(市民総合体育館、市民水泳プール、市営庭球場、国際スケートセンター)の利用者数を増やす。

②スポーツをする人を増やし、市民ひとり1スポーツを実現する。

③全国的な舞台で活躍できる競技者を増やす。

④スポーツ少年団登録単位団を増やし、適切な指導ができるスポーツ指導者を育成する。

指標名	実績	後期計画	
	最新実績 平成24年度	開始時目標 平成26年度	終了時目標 平成30年度
①スポーツ施設利用者数	①294,382人	①296,600人	①300,000人
②週1回以上運動・スポーツをする成人の割合(健康増進に関するアンケート調査より)	② 47.0%	② 50.0%	② 65.0%
③国民体育大会出場種目・選手数(岡谷市関係)	③15種目 20人	③15種目 20人	③18種目 30人
④スポーツ少年団登録単位団・団員数(岡谷市スポーツ少年団)	④ 9団体234人	④ 9団体250人	④15団体350人

12-1 多文化共生の推進

【現況と課題】

世界規模で人材、物流、情報が行き交うなどグローバル社会の進展により、企業の海外進出や技術交流が進み、市内企業においても外国人研修生などを受け入れています。

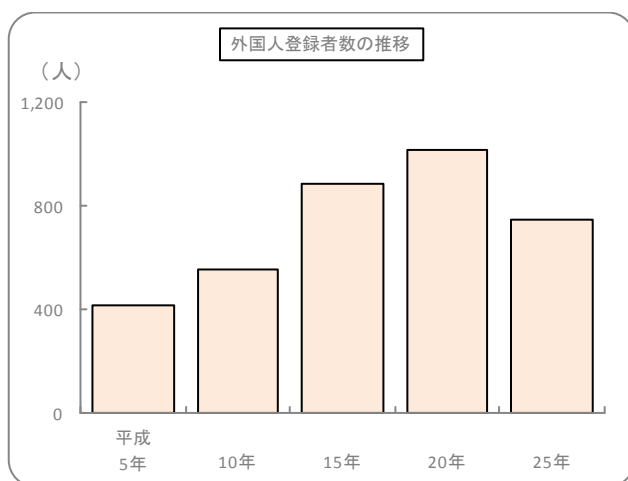
在住外国人については、地域の国際化の進展とともに多国籍化が進む傾向にあり、市内には、生活習慣や文化の異なる多くの外国人が生活しています。

また、平成27年度に姉妹都市提携50周年の節目を迎える海外姉妹都市のマウントプレザント市をはじめとした諸外国との長年にわたる親善交流や、(公財)おかや文化振興事業団国際交流センターが行ってきた各種事業の推進により、市民の国際理解が醸成されてきています。

こうした状況の中、学校や地域など生活のあらゆる場面で適切な対応を継続し、多文化共生の社会づくりを引き続き推進することが求められています。

今後も、国際交流の推進母体である(公財)おかや文化振興事業団国際交流センターと連携を深め、変化の激しい国際情勢の的確な情報把握に努め、多様な文化をもつ国々との交流を推進するとともに、岡谷に暮らす在住外国人が必要な市民サービスを楽しむことができるよう、さまざまな支援を通じて、ともに住みやすく活動しやすいまちづくりを進めていくことが大切です。

【資料・データ】

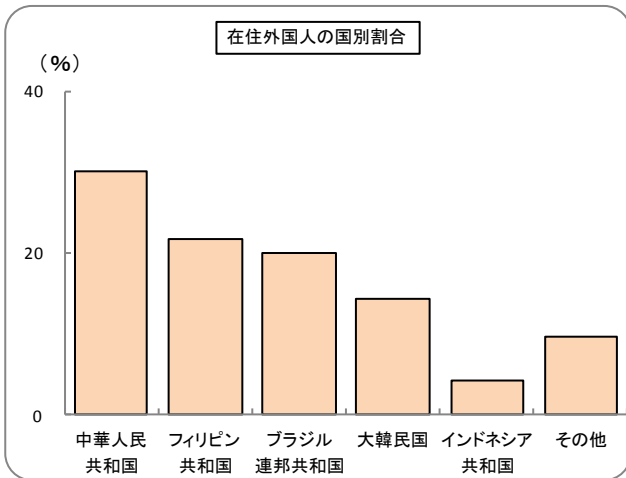


外国人登録者数の推移

(単位：人)

区 分	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
外国人登録者	416	553	886	1,014	747

各年1月1日現在

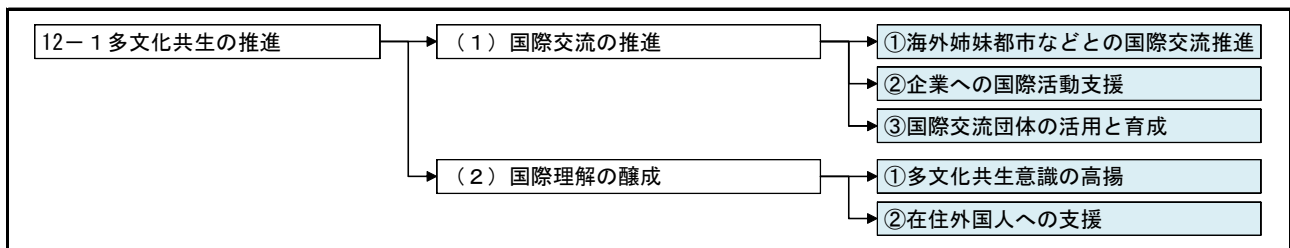


在住外国人の国別割合

区 分	中華人民 共和国	フィリピン 共和国	ブラジル 連邦共和国	大韓民国	インドネシア 共和国	その他
人 数 (人)	233	161	148	106	31	71
割 合 (%)	30.14	21.76	20.00	14.32	4.19	9.59

平成25年 1 月 1 日現在

**【施策の体系】**



## (1) 国際交流の推進

### ①海外姉妹都市などとの国際交流推進

平成27年度に姉妹都市提携50周年を迎える海外姉妹都市のマウントプレザント市との記念事業などの交流事業をはじめ、中高校生の海外派遣、海外からの研修生、留学生の受け入れなどを通して、諸外国との文化、学術研究、教育、産業などの各分野の交流を促進します。

### ②企業への国際活動支援

経済のグローバル化にともない、海外に進出する企業や外国人を雇用する企業に対して必要な情報の収集と提供を行うほか、外国人研修生の受け入れなどを支援します。

### ③国際交流団体の活用と育成

(公財)おかや文化振興事業団国際交流センターとの連携により国際交流事業を展開するとともに、各種の国際交流団体やグループの育成、支援に努めます。

## (2) 国際理解の醸成

### ①多文化共生意識の高揚

グローバル社会の実情などを紹介する講演会の開催や国際交流員の設置などにより、市民や企業の国際理解のための機会の充実を図るほか、学校での英語教育と生涯学習での多言語学習を推進し、国際理解を醸成し多文化共生意識の高揚に努めます。

### ②在住外国人への支援

生活全般にわたる相談事業や日本語講座、公共施設見学会、就園、就学児童の支援などの生活支援を充実するとともに、都市サインや必要なパンフレットなどに外国語を併記するよう努め、外国人が訪れやすい暮らしやすいまちづくりを推進します。

## 【目標指標・数値】

指標名：①日本語講座の受講者数

②国際交流ボランティア登録者数

内容説明：①(公財)おかや文化振興事業団国際交流センターが行う、日本語講座の延べ受講者数を増やす。

②国際交流活動に関するボランティア登録者の実人員を増やす。

指標名	実績	後期計画	
	最新実績 平成24年度	開始時目標 平成26年度	終了時目標 平成30年度
①日本語講座の受講者数	①180人	①185人	①200人
②国際交流ボランティア登録者数	②133人	②135人	②145人